# 地版アクセス

毎月1回 1日発行 購読料 定価150円 (本体139円) 年間1,500円(税込み) 振替 00120-0-19017

発行所 ㈱地方・小出版流通センター 編集 アクセス編集委員会 〒 162-0836 東京都新宿区南町 20 TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

# 日本の食文化と 女性の生き方に寄り添い半世紀

文・『月刊ベターホーム』編集長 伊丹淳子

『月刊ベターホーム』の発行元は、一般財団法人ベターホーム協会。全国 18か所で料理教室を開催する食団体です。

ベターホーム協会の創立は1963年。ときは高度経済成長期の真ん中。 戦後の復興期を経て、日本中が大量生産・大量消費を謳歌していた時代でした。そういう世情の中、いたずらに消費文明に流されず、賢い消費者になろうとする主婦たちの学習集団、つまり消費者教育組織として活動をスタートさせたのです。

#### 賢い消費者になるために

そして、協会の創立から遅れること 1年、この『月刊ベターホーム』は創刊されました。世の中には次々と新しい商品が登場し、主婦の購買欲をくすぐりますが、まさに玉石混交といった状態でした。また、1960~1970年代は、食品安全への意識が高まり、添加物などの規制が始まったころでもあります。

そんな時代背景の中、「賢い消費者になるべく、自分たちの手で、自分たちのための学びのテキストを作ろう」という目的から、『月刊ベターホーム』は生まれたのです。

#### 常に「生活者」の目線を忘れない

このような思想はややもすると、少しでも体に悪そうなもの、不安を感じるものは、すべて排除しようといった方向に走りがち。しかし、ベターホー



『月刊ベターホーム』創刊 5 0 周年特別号 2014年 12 月号・A 4 判・定価 205 円(税込)

ム協会が大切にしているのは、あくまで「生活者」の目線です。たとえば、創刊当時には既に、ラーメン、コーヒー、スープなど、いわゆる「インスタント商品」が台頭していました。それらをいたずらに否定するのではなく、便利なものであると認めたうえで、「即席みそ汁には牛乳を加えましょう」「プリンの素にはくだものを補いましょう」等、上手に活用するすべを提案しています。これぞまさに"賢い消費者"の姿ではないでしょうか。

また、1973年の第二次オイルショック時には、「ものを大切にする 運動」を展開。限りある資源をムダに しないためのノウハウを誌面に掲載す るとともに、子供服の不要品バザーを 行いました。その利益を基金として設立した国際親善奨学金制度は、今も継 続しています。

このように、生活者の目線に立ちながら、役に立つ情報を発信するという編集スタンスは、現在まで一貫して変わりません。

#### 縦軸に食、横軸に女性の生き方

また、『月刊ベターホーム』の50 年の歴史の隣には常に、時代の中で悩 める女性の姿というものがありまし た。創刊号に、評論家の故古谷綱武氏 による、こんな寄稿文が掲載されてい ます……むかしの女の一生涯の計画 は、子をうんで育てる、それだけが全 部であった。それだから子が母の手を 離れてしまうと、もはや生きがいを見 失った失業者になるほかはなかったの である。今までの日本の女の後半生は、 その底深いさびしさだけをかみしめて 生きてきたものであった。これからは、 自分から自分を、そんなに粗末に扱う ことは、けっしてしてはいけない…… 今、こうして読み返すだけでも、当時 の女性たちの閉塞感が伝わってくるよ うです。

では、その後の50年で、女性たちは開放されたかというと、決してそうではありません。進学率が上がり、仕事をもつ人が増え、家電もめざましく進化する一方ですが、自由が増えたわけでもありません。また、生き方が多様化した分、「自分の人生はこれでいいのだろうか」と、別の悩みを抱えこむことにもなりました。『月刊ベターホーム』では、晩婚化、不妊問題、派遣社員の実態、働く女性の心のケアなど、時代ごとの女性の生き方に目を向けてきました。

このように、『月刊ベターホーム』は、 縦軸に食、横軸に女性の生き方をから めながら、半世紀もの間、歩んでまい りました。そして、誌面を通じて、社 会に働きかけ、提言してきたともいえ ます。

#### レシピ以上に伝えたいこと

現在の『月刊ベターホーム』は、料理レシピが中心ではありますが、決して単なるお料理雑誌ではありません。昨今はインターネットを開けば、指1本でレシピが泉のように溢れ出てくる時代です。ただレシピを知りたいだけなら、それでも事は足りるでしょう。しかし、ベターホームが読者の方々に伝えたいのは、さらにもう一歩掘り下げたところにあります。それは、食べものを大切にする心や、環境に配慮した掃除の方法、食事の作法やマナー、料理の由来であったりといったことです

たとえば、きんぴらごぼうは、仕上げにごまをふるレシピが多いもの。ごまの香りで料理の味を引き立てる意味もありますが、目的はそれだけではありません。このように、煮ものや酢のものなどを盛りつけた上に、さらにのせるものを「天盛り」といいます。ここうすることで、「まだ誰も手をつけてなしの意を表すことができるしになり、のと知らないのとでは、作る側も心持ちが違ってきます。指1本でかんたんに手に入るレシピからは、決して得ることができない情報です。



▲ベターホームの教室風景

このような、食の知識や知恵の積み重ねこそが、心豊かな暮らしにつながると、ベターホーム協会は考えます。

#### 「誌上版お料理教室」として

昔は、料理の技術や生活の知恵は、 親から子、そして孫へ、連綿と受け継 がれていくものでした。しかし、残念 ながら、現代の忙しい生活の中では、 その伝承は希薄になる一方です。 ベ ターホーム協会では、家庭や学校教育 に代わって、次世代に伝えていきたい という思いをこめて、お料理教室を開 催しています。食は生活の礎となるも の。「二十歳になったらベターホーム」 は、ちょっと言い過ぎかもしれません が、正しい食の知識が学べるお料理教 室は、人々が自立して生きるための通 過点でもあるのです。

この『月刊ベターホーム』は、いわば"誌上版お料理教室"としての役割を果たすもの。雑誌という形態であれば、役立つ知識をコンパクトにまとめて、受講生はもちろん、お料理教室に通うことができない地域にお住まいの方々までお届けすることができます。

この先の50年、いえ100年先まで、『月刊ベターホーム』は、人々の暮らしを見つめ続けていきます。

\*

(いたみ じゅんこ・『月刊ベターホーム』編集長)

# 新刊ダイジェスト

※価格は税込(消費税率8%)表示です。





### 『隼人異聞史話 −縁の下の古代史』●中村明蔵著



本書は、隼人研究の第一人者である著者が地域の情報誌に連載したものが元になっている。 隼人は、南部九州の住民全体をさすヤマト王権側の呼称として、7世紀後半から文献に登場する。だが、5世紀には首長クラスの豪族らが王権から姓(かばね)を与えられており、以前から中央との交流はあった。かれらはヤマト王権の侵略に抗戦するも敗れ、その結果、定期的に朝貢が義務づけられ、一部は畿内へ強制移住させられた。海幸彦(隼人の祖)・山幸彦(天皇家の祖)で知られる日向神話も、隼人が王権に 服属した時期に造作されたものだ。考古学的に見た場合、大隅・薩摩の各地域で墓制に違いがみられる。大隅隼人・阿多隼人・薩摩隼人が蟠踞していたが、王権の影響が強い高塚古墳と在地系の地下式墓の形態や分布状況により、征服者と服従者との葛藤と共存、さらには同化の痕跡が読み取れるという。支配と従属という図式は現在でも大きな問題であり、過去から学ぶべきことは多い。

◆ 1620 円・四六判・213 頁・**国分進行堂・**鹿 児島・2015/2 刊・ISBN978-4-9908198-1-1

# 『アルバムの

## 『アルバムのチカラ』●文・藤本智士/写真・浅田政志



「アルバムつくってますか?」こう問われて「はい」と即答できる人は今やどれくらいいるだろうか。デジカメやスマホで写真を撮ることが一般化し、データはプリントされずにメモリーカードなどに溜まっていく一方で、フイルムカメラの時代は終わったかのように見える。しか被災者を再写づけたのけ他でまないアルバ

し、被災者を勇気づけたのは他でもないアルバムだった。変わり果てた自宅で被災者が必死に探していたのはアルバムであり、泥だらけになった写真を救おうと写真洗浄のボランティア

が活躍し、持ち主の元に帰っていく。本書は編集者と写真家が震災後約2年にわたって東北沿岸部各所に赴き、写真救済の現場を取材し続けた記録である。ボランティアの表情だけではなく、写真を手にして安堵の笑みを浮かべる人々や体育館に並べられた膨大な数の写真など、現場の写真も満載。改めて写真をプリントすること、アルバムという形にすることの大切さが伝わってくる。

◆ 1728 円・192 × 151mm・249 頁・赤々舎・ 東京・2015/3 刊・ISBN978-4-86541-028-0

# 『碧い眼に映った日光 −外国人の日光発見』●井戸桂子著

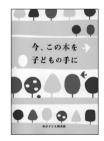


いまではわが国有数の観光地で、世界遺産の「日光」であるが、明治維新直後は、徳川幕府の崩壊でその庇護を失い、また廃仏毀釈などで存亡の危機に瀕していたという。結果的にこの事態を救ったのは、欧米からやってきた外交官や旅行者などの外国人で、霊山日光への評価、賞賛であった。たとえば、イギリス公使で長く日本との外交に係わったアーネスト・サトウをはじめ、大森貝塚発見のアメリカ人モース、フランスの実業家ギメ、『日本奥地紀行』の著者イギリス人女性イザベラ・バードほか多数にの

ぼる。 荘厳な杉並木に導かれて行くと出会う神橋、そして「暗い森に浮かぶ金色の櫃、その中で家康が神になる」という壮麗な東照宮、輪王寺、二荒山神社が現れる。 やがてかれら外国人の関心はさらに高所にある中禅寺湖へと向かい、湖畔に別荘をかまえると、「紙と木の家」は森と空と水に溶け込み、いっそうの感動を呼び起こしたという。なお、本書は全頁フルカラーで楽しめる。

◆ 1620 円・A 5 判・157 頁・**下野新聞社・**栃木・2015/2 刊・ISBN978-4-88286-560-5

# 『今、この本を子どもの手に』●東京子ども図書館編



1974年の創設以来、子どもの本と読書を専門として多様な活動を展開している公益財団法人東京子ども図書館は、東日本大震災で蔵書を失った図書館の再開や被災地の子どもたちにもたり、これまで10集に及び「3.11からの出発ブックリストー被災地の子どもたちに届けたい本」を作成してきた。絵本、昔話、詩、ノンフィクションなど各ジャンルにわたり、古典から現代作品までを対象年齢、難易度に考慮し、書誌事項、価格、内容、評価ポイント、解題を記したこのリストは、児童サービスに関わ

る震災復興のツールとして大いに活用された。

本書はそこに収録された1334冊から、絶版・品切れを入手不可能なものに差替えるなどし、被災地のみならず、公共図書館、学校そして家庭においても役立つようにと、1000冊に集成したものである。親しみ易い解題一つをとっても、子どもたちに優れた作品に出会って欲しいと願う思いが込められていることがよく分かる

◆ 1080 円・A 5判・188 頁・東京子ども図書館・ 東京・20150212 刊・ISBN978-4-88569-075-4

# 『江若鉄道の思い出 −ありし日の沿線風景』●大津市歴史博物館編



1969年、国鉄(現JR西日本)湖西線の建設に伴い、琵琶湖の西岸を走るひとつの私鉄が廃止されました。その鉄道の名は江若(こうじゃく)鉄道。今はJRの電車が高架橋の上を走り抜けているのとほぼ同じ場所を、ディーゼルカーが走っていました。本書は在りし日の江若鉄道の写真や、関係者の思い出話などをまとめて、当時の姿を浮かび上がらせます。ターミナル浜大津駅の賑わいや湖水浴客でごったがえす琵琶湖岸の各駅、あるいは貨物列車での搬出を待つ材木の山の様子からは、当時鉄道が陸上交

通の主役であったことがよくわかります。一方で元職員の方の思い出には、運転中の貨物列車を停めて沿線の柿の実を取ったなど、時代を感じさせるのどかなエピソードもあります。今や廃線の跡も失われつつある江若鉄道。本書はもともと知っている人には懐かしさを感じさせるでしょう。それ以上に知らない人に手にとってもらい、その記憶も引き継いでいってもらえればと思います。

◆ 1728 円・A 5 判・127 頁・サンライズ出版・ 滋賀・2015/2 刊・ISBN978-4-88325-554-2

# 売行良好書

期間: 2015年3月16日~4月15日

[出荷センター扱い] ※価格は税込(消費税率8%)表示です。

(1) 『今、この本を子どもの手に』1080 円・東京子ども図書館 (2) 『明星』3240 円・ナナロク社 (3) 『海辺を食べる図鑑』2160 円・南方新社 (4) 『江若鉄道の思い出』1728 円・サンライズ出版 (5) 『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1404 円・書籍情報社 (6) 『生類供養と日本人』2160 円・弦書房 (7) 『未来ちゃん』2160 円・ナナロク社 (8) 『本で床は抜けるのか』1728 円・本の雑誌社 (9) 『アウスラさんのみつあみ道』1620 円・石風社 (10) 『京都の市電 昭和を歩く』2808 円・トンボ出版 (11) 『山陰の神々 神々と出会う旅』2000 円・今井出版 (12) 『表現の自由と出版規制』2160 円・出版メディアパル (13) 『榛名図式桑原辰雄詰将棋作品集』1404 円・双峰社











## [三省堂書店神保町本店 センター扱い図書] ※価格は税込(消費税率8%)表示です。

(1) 『本で床は抜けるのか』 1728 円・本の雑誌社 (2) 『昭和プロレスマガジン35』 1000 円・昭和プロレス研究室 (3) 『東京かわら版 4月号』 648 円・東京かわら版 (4) 『本の雑誌 383号』 720 円・本の雑誌社 (5) 『本屋大賞2015』 600 円・本の雑誌社 (6) 『円周率1、000、000 0 析表』 339 円・暗黒通信団 (7) 『三角形』 360 円・暗黒通信団 (8) 『古本屋ツアー・イン・神保町』 2160 円・本の雑誌社 (9) 『今日の漫画』 1296 円・ナナロク社 (10) 『奥多摩登山詳細図 西編 全112コース』 950 円・吉備人出版

#### [ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本一センター扱い図書] ※価格は税込(消費税率8%)表示です。

(1)『山陰の神々 神々と出会う旅』2000円・今井出版 (2)『別覇の市場で古本屋』1728円・ボーダーインク (3)『風に立つライオン 増補版』1620円・不知火書房 (4)『日本海の拡大と伊豆弧の衝突』1080円・有隣堂 (5)『ペコロスの母に会いに行く』1296円・西日本新聞社 (6)『フューチュリティ Vo1. 55』2570円・ジェイエス (7)『江若鉄道の思い出』1728円・サンライズ出版 (8)『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する』864円・リーブル出版 (9)『奥多摩登上詳細図 (西編) 雲取山・三頭山・御前山・鷹ノ巣山 全112コース』950円・吉備人出版 (10)『学校の手話』2700円・星湖舎 (11)『沖縄に内なる民主主義はあるか』1620円・ヒジャイ出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。 URL: http://neil.chips.jp/chihosho/ ッイッター公式アカウント:@local\_small

## トピックス --- ★★★

▼ 奥会津書房から刊行されていた【会 津学】がこの3月に刊行された第7号 で終刊となりました。以下第7号「終 刊によせて」より抜粋させていただき ます。

〈創刊以来十年。この7号を区切り として【会津学】を閉じることとした。 二〇一一年の震災と原発災害後、会津 学研究会の出版を支えてきた奥会津書 房は、すべての自主企画本の休刊を決 めた。書房業務は、救援物資の確保と 輸送が最優先された。…しかし、そう した作業が一段落しても、状況は何も 変わらなかった。気が付けば文字も言 葉も蜃気楼のように実態を失い、出版 することの意味さえ見えなくなってい た。…三年を経て編集を中途にしたま まだった第7号を、終刊として出版で きる道が奇跡のように拓かれた。…【会 津学】は第7号を持って閉じられるが、 会津学研究会の聞き書きによる学びは 止まることはない。土地の記憶を継承 するために、今後も様々な形での発信 を模索していきたい。〉

今後、奥会津書房では小さなブック レットのような形での出版物刊行を企 画されているということです。

# 郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、 連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、 冊数の必要事項を明記のうえ、下記ま でFAXでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が 5,000 円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182



# 三省堂書店

# 営業の ごあんない

#### 神保町本店 4階 地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~8:00 PM 〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 TEL. 03-3233-3312(代)

URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流 通センター扱いの新刊全点のほか、 地域別に書籍を取り揃えており ます。また、地域ならではのタウ ン誌、趣味の雑誌も扱っております。

